

光ミュージアム 年報 2022.12

HIKARU MUSEUM

第 14 号

令和 4 年

HIKARU MUSEUM



h-am.jp

目次

ごあいさつ

光ミュージアムの理念

テーマ「光」	4
地域に貢献できる博物館活動	4
生涯教育に役立つ博物館	4
国際交流の推進	4

施設概要

建築概要	5
施設の規模	5
フロアガイド	6

展示概要

常設展示	7
一階企画展示室	7
飛騨展示室	10
人類史展示室	15
美術展示室	21
特別展示	27
北大路魯山人展	27
古代エジプト展	29

企画展示	35
------	----

田辺謙輔展～南国の風にふかれて～	35
------------------	----

普及活動

一般向け活動	37
--------	----

体験学習	37
------	----

謎解き	39
-----	----

外部連携活動	39
--------	----

出張美術館	39
-------	----

学校連携活動	41
--------	----

岐阜女子大学 書道部練成会	41
---------------	----

その他連携活動	41
---------	----

地域お仕事発見隊	41
----------	----

資料貸出

貸出資料	42
------	----

光ミュージアムは、平成 11 年 4 月の開館より 23 年を迎えさせていただきました。当館は平成 14 年より博物館法による「登録博物館」として活動を行っております。また、平成 29 年からは財団化し、「一般財団法人 光ミュージアム」として運営致しております。ここに年報第 14 号を刊行し、令和 4 年の事業報告を致します。

特別展としては「北大路魯山人展」「古代エジプト展」を、また企画展として「田辺謙輔展」を行って参りました。

普及活動としては、教育委員会ならびに学校と連携して連年、小・中学校で行っている「出張美術館」が 19 年目を迎えました。また、大学との協力による岐阜女子大学文化創造学部書道教育コースの書道練成会も、10 年以上継続して開催しております。さらには、(一般社団法人)高山市文化協会と連携し、子供たち向けのイベントを行うことで、これまでより一層地域に根差した教育普及活動となりました。

お蔭さまで当館のコレクションに対し、国内外の美術館・博物館から作品・資料の出品や貸し出し依頼が増えており、これに応えて他館との連携も深めております。これからも、地域社会はもとより国際的にも貢献できる総合博物館として、事業・活動の充実を図って参りたいと存じます。これまでご協力を賜りました関係機関、関係者各位に心より厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも当館に対し、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう謹みてお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月 31 日

光ミュージアム

小林 秀明

光ミュージアムの理念

テーマ「光」

地球環境との対話が叫ばれる今日、生命エネルギーの根源である「光」をテーマに博物館活動を行なう。「光」のテーマは広範囲である。太陽からの光、自然からの光、化石等過去の物質からの光、人工的な過去の文明からの光、また、芸術・美術、人の心からの光など。こうした人類に向けて放たれる光を多方面にわたり

- 1 資料収集・保管
- 2 調査研究
- 3 資料・収蔵品の紹介・展示
- 4 教育普及活動

することにより、人類・社会の精神的・物質的な向上を目指すものとする。来館者が、長い年月の中で地球や人類が育んできた歴史をたどり、自然と人類が残した優れた美・芸術・文化に触れることにより、今後の生き方、未来へ歩む方向性を見出せるような活動を展開していく。

地域に貢献できる博物館活動

飛騨地域は、特有(古生代から新生代)の地層・地質・岩石・化石等を保有している。そこに住む人々の 歴史と伝統文化を紹介することにより、地域に融和した文化環境の向上を目指す。地元、飛騨地域(高山市を含む)を中心に、岐阜県及び中部地区に貢献できる社会教育施設として、博物館活動を展開していく。

生涯教育に役立つ博物館

老若男女を問わず、児童・生徒から大人まで気軽にご来館いただける公共施設として、生涯教育に役立つ総合博物館として、特に、今後の未来を担う青少年の知育向上のための教育施設として、広く一般に利用していただくことを目的とする。

国際交流の推進

世界古代文明の遺物や優れた芸術品を展示・紹介することにより、国際交流の推進並びに地域社会の国際 化にも貢献する。

そのため積極的に国際的な企画展を実施していく。

施設概要

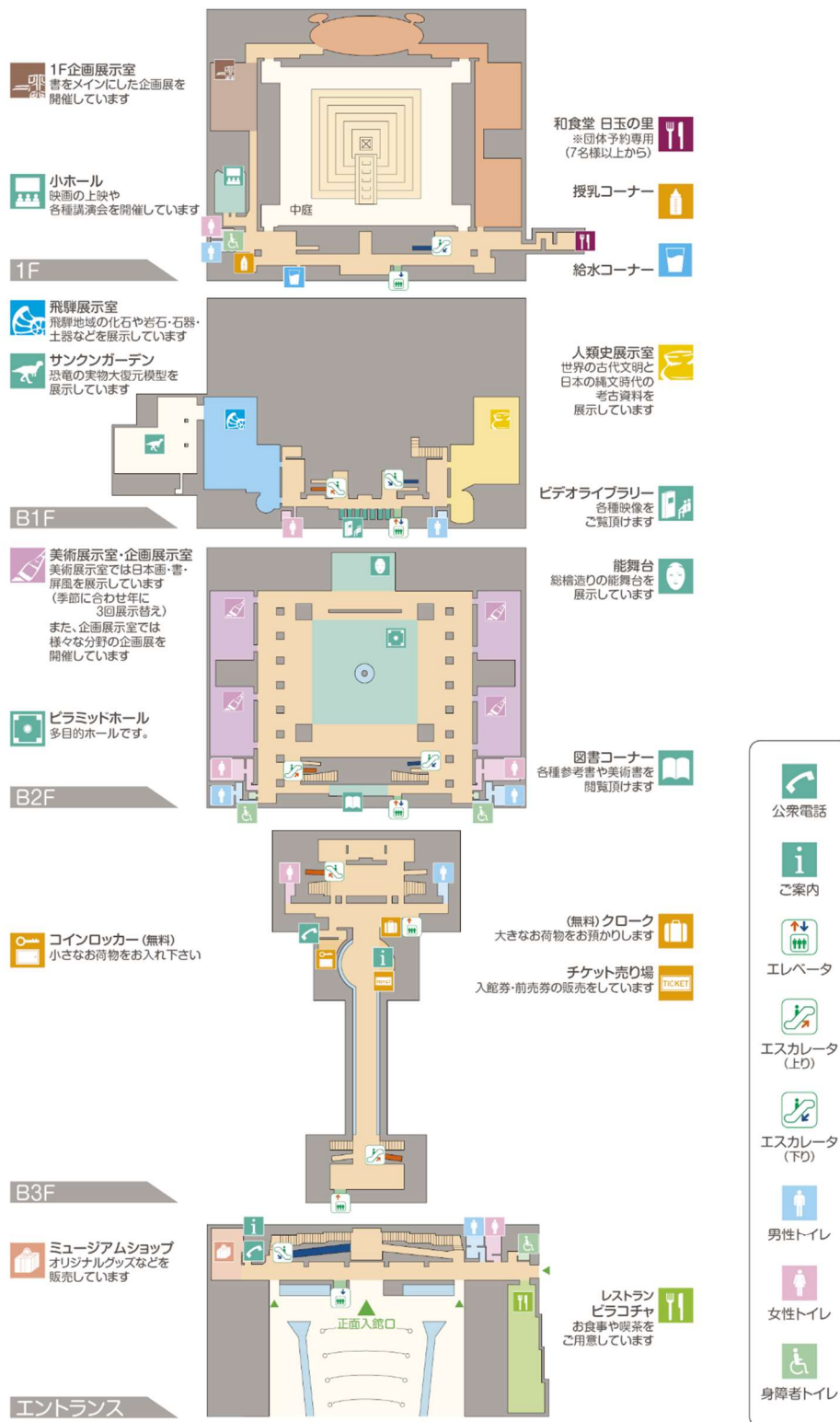
建築概要

所在地	岐阜県高山市中山町 175
地区・地域	第 2 種住居地域 教育文化地区
工期	着工:平成 5 年 6 月 23 日 竣工:平成 10 年 2 月 27 日 開館:平成 11 年 4 月 8 日
敷地面積	75,753.75m ² (22,915 坪)
建築面積	14,097.00m ² (4,264 坪)
建ぺい率	19.78%≦48.17%(地区計画)
延床面積	32,668.81m ² (9,882 坪)
容積率	45.84%≦76.34%(地区計画)

施設の規模

駐車台数	来館者用	乗用者 105 台 バス 27 台
	職員用	乗用車 66 台
見学ゾーン面積		
1 階	3,750.62m ² (1,135 坪)	
地下 1 階	2,812.12m ² (851 坪)	
地下 2 階	7,013.97m ² (2,122 坪)	
合 計	13,576.71m ² (4,107 坪)	
能舞台	1 舞台	
小ホール	108 席	
収蔵庫面積	1,534.62m ² (464 坪)	
図書室	30 席	
レストラン「ビラコチャ」	108 席	
和風レストラン「日玉の里」	82 席(団体予約専用)	
立礼席	32 席	
美術館棟の外形	101m×86m	
外部ピラミッドの高さ	20.7m(中央床面より)	
内部ピラミッドホールの天井高	21.7m(地下 2 階フロアより)	
可変床面積	1,353m ² (409 坪)	

フロアガイド



展示概要

常設展示

常設展「2022 書コレクションⅠ」

開催期間

2022 年 2 月 27 日(日)～8 月 22 日(月)

作品点数

33 点

展示作品

No	作品名	作家名	年代
1	墨木の文	千利休	天正 15～19 年
2	茶杓	千利休	桃山時代
3	月下独酌	齋藤香坡	
4	龍蛇之蟄	平方峰壽	
5	光明	山下海堂	
6	壺	上田桑鳩	昭和
7	幽	原田圭泉	
8	莊嚴	松井玲月	平成
9	清雅	丹羽海鶴	明治～大正
10	和歌散書	近衛信尹	桃山～江戸前期
11	万葉の五歌	沢田明子	平成 13 年
12	舞	山崎大抱	
13	放光	角紅苑	平成 13 年
14	国を想う	山本五十六	昭和 17 年
15	磊	桜井律好	平成 18 年
16	漢詩「新霽初之夕…」	中林梧竹	明治時代
17	花	正田耀花	平成 10 年
18	宙	鈴木桐華	平成 3 年頃
19	雄志	石川雲鶴	平成 9 年
20	撕	小島碧雲	平成 9 年
21	空	堀田翠堂	平成 7 年
22	漢詩「東召芳事已春深…」	巖谷一六	明治 13～30 年
23	拝	中井史朗	昭和 27 年～平成 13 年
24	玄妙	手島泰六	平成 10 年
25	ベツカム「鬼」	大杉弘子	
26	色	池田満寿夫	平成 8 年
27	得一	浅海蘇山	昭和～平成
28	刻字「在平素」	川合玉堂	

No	作品名	作家名	年代
29	和歌	若山喜志子	昭和 24 年～43 年
30	穆如清風	高橋照弘	昭和 42～平成 20 年
31	大道	須田剋太	平成元年
32	茶	須田剋太	昭和 58 年
33	燕	佐々木泰南	昭和～平成

常設展「2022 書コレクションⅡ」

開催期間

2022 年 8 月 25 日(木)～12 月 16 日(金)

作品点数

28 点

展示作品

No	作品名	作家名	年代
1	石	加藤豊翠	
2	玄妙	手島恭六	平成 10 年
3	畳	鶴木大寿	平成 9 年
4	虚	兎洞草民	
5	雪月花	金子恭子	
6	曉	加藤石泉	
7	爽鳩	波切童州	昭和～平成
8	雲無心	中根海童	令和 2 年
9	愚	板倉大河	平成 3 年
10	海嘯	柿下木冠	平成 25 年
11	翔	村松太子	平成 10 年
12	花野	大石千世	昭和 61 年
13	慈円の歌	國井久美子	平成 11 年
14	智信仁勇敵	東郷平八郎	大正 2 年
15	聖観音	柴山抱海	
16	「さあ今日もがんばろう…」	豊口広	平成 10 年
17	秘め事の文字「朝」	大杉弘子	平成 4 年
18	神威	野中吟雪	令和 3 年
19	暦	高野早苗	平成 30 年
20	漢詩	伊藤博文	明治
21	叫	青木香流	昭和
22	「夏すぎて…」	池田満寿夫	平成 3 年
23	魂	後藤教子	昭和 62 年
24	徒然草壹章	尾形乾山	江戸中期

No	作品名	作家名	年代
25	兎戯	斉藤青鳥	
26	鳥栖書	仙厓	江戸後期
27	行心	須田剋太	昭和 61 年
28	一	須田剋太	昭和 63 年

常設展「飛驒展示室」

1. 展示目的

現代の人類社会を支える自然が現在の姿になるまで、人類を含む全ての生命が果たしてきた役割と環境の変化を紹介する。

いつの時代においても 1 つ 1 つの生命には役割があり、一切無駄無く配置されている。生命と環境の長い歴史と積み重ねを知ることにより、自然をかけがえのないものとして再認識し、慈しむ心を育てる。

2. 展示内容

飛驒は古生代の福地層、中生代の手取層群、新生代の火砕流推積層等各年代の地層や岩石が露出していることで有名である。

飛驒の実物資料を通して、地球の自然界における普遍真理を捉え、一切無駄無く培われた生命の役割と命の尊さ、環境との関わり等を紹介している。

展示は飛驒産出の化石・岩石に考古資料を加え、古生代から現代までの飛驒の歴史と生命の関わりを提示している。地球環境を形成してきた命の大切さをどの年代層へも伝えられるよう、復元模型やジオラマに力を入れた。特に植物ジオラマは、葉脈に至るまで化石を元に忠実に復元している。

〈輝く生命の星〉

導入部には宇宙から見た地球を表現した模型を設置し、宇宙飛行士が見た地球の美しさと思議さを疑似体験する試みを行っている。

※展示手法

○地球模型

○100 インチモニター映像

○実物資料：隕石

〈古生代〉

飛驒にある古生代の地層からは、サンゴをはじめとする海の生き物の化石が数多く発見されている。

これらの原始生物は何億年もかけて、生命の星とよばれる地球環境をつくったといわれている。

これらを垣間見ると、それぞれが理想的な共生関係を保って繁栄を遂げたことが理解できる。このゾーンでは飛驒産出の化石を時代毎に展示するとともに、示相化石・示準化石や地層累重の法則などの基礎的な内容を学べるよう展示をしている。

※展示手法

- 実物資料…海生動物化石・岩石
- 岩盤模型…実物資料を用いて福地層デボン紀の露頭を再現した
- ジオラマ…「シルル紀」「デボン紀」「石炭紀」「ペルム紀」の海の様子を復元した
- ミラービジョン…映像

〈中生代〉

飛騨地域にまたがる中生代の地層「手取層群」は恐竜や植物化石を多く産出することで知られている。海から陸、湖、川、空へと生活環境を広げ、動物と植物が共生しながら繁栄を遂げ、中生代の生活環境をつくったことを伝える。

※展示手法

- 実物資料…陸上植物化石・海生動物化石等
- ジオラマ…手取型植物群を原寸大で葉脈に至るまで、精巧に復元した
- 恐竜模型…手取層群から発見されたスギヤマリユウ・カガリユウの原寸大復元模型

〈新生代〉

飛騨地方では新生代のはじめから約 300 万年前までの間の地質現象を示す地層や化石が発見されていない。飛騨の山々は、それ以降にはじまった火山活動とプレート運動によって形成されたと考えられる。大地に残された痕跡から激しい変動の様子を伝える。

また、新生代は哺乳類が繁栄したことで特徴づけられ、その中には人類も含まれる。他の生物と違い、人類は道具を生み出し用いることで自然環境に適応してきた。用途ごとに適した素材を選び分け、活用してきた人類と自然環境との関わりを、素材を通して紹介する。

※展示手法

- 実物資料…岩石、石器、土器
- 映像模型…噴火と再生の様子を紹介

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習をする場とする。

※学習手法

- 体験学習室・多目的スペース ……ワークショップを行う。

恐竜の歯を展示。

学習映像を放映。

監修・協力

全体監修：(故)猪郷久義(筑波大学名誉教授)

真鍋真(国立科学博物館副館長) 下畑五男(元岐阜県博物館館長)

久保貴志、三宅幸雄(敬称略)

展示資料数

古生代：化石 66 点 岩石 6 点

中生代：化石 27 点

新生代：岩石 12 点 その他 59 点

企画展 鉱物コレクション展 ～物語に描かれた宝石展～

開催期間

令和4年2月27日(月)から12月16日

展示点数

19点

展示概要

赤毛のアンの目に映ったアメシスト、銀河鉄道の車窓に広がる宝石など、幼少期に読んでもらったお話や大人になって手にする小説に描かれる宝石の数々。これらは、いったいどんな色でどんな宝石だったのか。主人公が目の当たりにした宝石を物語と自然科学の側面から解説を行い展示した。

特に展示前年(2021年)9月、日本の誕生石が63年ぶりに改定され、新たに10種類の宝石が加わると発表されました。

そこで、当館にて鉱物資料として収蔵していた未公開コレクションを中心に、誕生石に該当する宝石を展示・解説するとともに、新たな試みとして、これらの宝石が登場する物語やライトノベルなどもご紹介しました。

No	誕生石月	宝石名	鉱物名	物語名
1	1	マラヤ・ガーネット	ガーネット	若草物語 L.M.オルコット著
2	2	アメシスト	クォーツ	赤毛のアン L.M.モンゴメリ著
3	3	アイオライト	コーディエライト	手作り雑貨ゆうつづ堂「アイオライトの道標」植原翠著 植原 翠、手作り雑貨ゆうつづ堂 ～アイオライトの道標～ (マイナビ出版ファン文庫)
4	3	アクアマリン	ベリル	シェーラ姫の冒険 村山早紀
5	4	ダイヤモンド	ダイヤモンド	ヒキガエルとダイヤモンド 365日のベッドタイム・ストーリーより クリスティーヌアリソン編著
6	4	トルマリンテッド・クォーツ	クォーツ トルマリン	水晶庭園の少年たち「喪に服す電気石」蒼月海里著 集英社文庫
7	5	エメラルド	ベリル	緑柱石の宝冠(シャーロック・ホームズ) コナン・ドイル著
8	6	アレキサンドライト	クリソベリル	ミステリと言う勿れ 田村由美著
9	7	ルビー	コランダム	幸福な王子 オスカー・ワイルド著

No	誕生石月	宝石名	鉱物名	物語名
10	8	スピネル	スピネル	宝石商リチャードの謎鑑定 「麗しのスピネル」辻村七子著
11	8	ペリドット	オリビン	手作り雑貨ゆうつづ堂 植原 翠著
12	9	サファイア	コランダム	サファイア 湊かなえ著
13	10	パライバ・トルマリ ン	トルマリ ン	青子の宝石事件簿 和田はつ 子著 角川春樹事務所
14	10	ファイヤー・オパー ル	オパール	貝の火 宮沢賢治著
15	11	トパーズ	トパズ	銀河鉄道の夜 宮沢賢治著
16	12	タンザナイト	ゾイサイト	宝石商リチャードの謎鑑定 「転生のタンザナイト」辻村七 子著
17		シトリン	クォーツ	水晶の栓 アルセーヌ・ルパン シリーズ モーリス・ルブラン 著 偕成社
18		ルチレイトド・クオ ーツ	クォーツ/ルチル	水晶の栓 アルセーヌ・ルパン シリーズ モーリス・ルブラン 著 偕成社
19	5	レッド・エメラルド	ベリル	青山骨董通りの事件簿 和田 はつ子著 角川春樹事務所

常設展「人類史展示室」

1. 展示目的

展示は、人類が共通して持つ普遍の心、『崇める心』をテーマにした。

古来より人類は自然を畏れ尊び、人間の知恵と力の及ばないところに神の世界があると考え、崇める心を培ってきた。豊かな文化や現代にまで残る遺産といった古代文明の所産は「崇める心」の象徴であり、現代文明においても人々の心のよりどころとなっている。また、先人の努力があって我々も今日の生活を営めるのであり、何千年も前から現代にまで通じる文化の共通性・独自性を知ることは、今後の文化・文明を考える上でも重要である。

ダイナミックな造形を生んだ世界各地の文化遺産の展示を通して、21 世紀を生きる現代人の視野を広げ、文明を育む原動力となった人類の心を問う場を提供している。

2. 展示内容

人類史展示室では、世界各地の考古資料を各文明・文化ごとにまとめた展示を行っている。旧石器時代から世界の 7 つの文明と日本の縄文時代について、その全体像と精神性を実物資料、模型、解説パネル、映像、ミラービジョン等によって紹介している。

『崇める心』をテーマに人類の心を探り、その帰結としての諸文明を提示している。

〈旧石器時代〉

約 400 万年以上前から世界各地に広がった人類は、厳しい自然環境に適応しつつ豊かな文化を育んでいった。

火の使用、石器の加工技術、豊穡や秩序を祈る洞窟壁画等を通して、旧石器時代の人々の『崇める心』を中心に紹介している。

※展示手法

○実物資料…旧石器。

○縮小模型…旧石器時代の洞窟壁画。

〈世界の古代文明〉

約 1 万年前頃から、世界各地に文明・文化が興っていった。古代文明展示の導入として大型の地図・年表を配置し、7 つの文明と日本の縄文時代の地理的・時代的な位置関係を一覧できるよう工夫した。

各文明に見られる環境や遺跡・遺物を一堂に見ることで、それぞれの相違点や普遍性を垣間見ることができる。

※展示手法

○世界地図にモニターや展示ケースを配置し、各文明の気候風土・代表的な遺跡・遺物を映像や資料で一覧できるようにしている。

〈古代文明〉

紀元前 3000 年頃より栄えた世界的にもよく知られる 7 つの文明を、コーナーごとに分けて展示している。

世界各地の古代文明を社会のあり方や建築、実物資料の造形や紋様等、多方面から見つめ、比較することで、それぞれの文明を支えた人々の宗教観・死生観を探り、人類の未来を模索できるようにしている。

※展示コーナー

- ①メソポタミア文明
- ②ギリシア・地中海文明
- ③エジプト文明
- ④メソアメリカ文明
- ⑤中国文明
- ⑥インダス・インド文明
- ⑦アンデス文明

※展示手法

○実物資料…保存状態の良好な副葬品の展示。特に中・南米は当時の人々の精神性を伝える土器や、布製品等の一級資料で充実している。

○グラフィック…大型写真パネル、地図・年表、解説文を全文明統一した手法で配置している。

○模型資料…当時の人々の精神性を伝える神殿縮小模型(ウルのジグラット・パルテノン神殿・ティカール神殿)、三内丸山遺跡の復元模型、巨木柱等を設置している。また、アンデス文明『太陽の門』の精巧な原寸大の模型は、現地の天野博物館にご協力いただいた資料を元に作成したものである。

〈縄文〉

縄文時代は近年の発掘・調査・研究により、その生活水準の豊かさが見直され、現在でも新たな発見が相次いでいる。

自然と共に生き、1 万年以上もの間続いた縄文時代の全体像を提示し、同時期に栄えた世界の文明と共に展示している。

※展示手法

○実物資料…土偶、土器、石製品。

○レプリカ…木製品、土器。

○ミラービジョン…三内丸山遺跡の 5500 年前と発掘時の様子を縮小模型で重ねてみせる。盛土模型、巨木柱模型、縄文時代の紹介映像

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習する場とする。

※学習手法

○スタンプラリー…展示室内にスタンプを設置し、各文明の建物や器・土偶などのスタンプを押せるようにしている。

資料名	地域	時代	年代
青銅製コブ牛像	イラン		アムラッシュ
地母神土偶	シリア		
文字付きレンガ	西アジア	新バビロニア時代	紀元前 625～紀元前 539
双耳壺	シリア		
土偶	イラン西部～アゼルバイジャン		
羊頭付手提壺	中東 アムラッシュ		紀元前 2000 年
金属製コップ	シリア？		
女神像	東部地中海	ヘレニズム文化	
アンフォラ型瓶	東部地中海	ローマ時代	
フクロウ・植物文様鉢	イタリア	エトルスク文化	紀元前 8～紀元前 3 世紀頃
渦巻型クラテル	ギリシア		
スキュフォス	ギリシア		紀元前 3 世紀
飾り壺	イタリア カノッサ		紀元前 3 世紀
アンフォラ	イタリア～ギリシア		
黒絵式三足土器	イタリア		
馬文様把手付き壺	北イタリア	ヴィラノーバ文化	紀元前 900～紀元前 700 年頃
青銅製手	北イタリア	ヴィラノーバ文化	紀元前 900～紀元前 700 年頃
鳥形土偶	イタリア カノッサ	グレコ・ローマン文化	
青銅製天使像	地中海地域	ローマ時代	
渦巻き文様双耳壺	エジプト	先王朝時代	
化粧容器	エジプト	新王国時代	紀元前 1539～紀元前 1077 年

資料名	地域	時代	年代
トキ像	エジプト	末期王朝時代	紀元前 772～紀元前 332 年
石製容器	エジプト	古王国時代	紀元前 2543～紀元前 2118 年
石製容器	エジプト	新王国時代	紀元前 1539～紀元前 1077 年
化粧ペン	エジプト	新王国時代	紀元前 1539～紀元前 1077 年
呪術板	エジプト	プトレマイオス朝	紀元前 332～紀元前 30 年
聖魚像(オキシリンコス)	エジプト	プトレマイオス朝	紀元前 332～紀元前 30 年
青銅製コブラ像	エジプト		
ジェセル王墓の壁面装飾タイル	エジプト	古王国時代 第3王朝	紀元前 2686～紀元前 2613 年
神官文様双耳壺	グアテマラ、南部	古典期後期	550～830 年
文字石彫	マヤ低地	古典期後期	550～830 年
ゴースト目石彫	メキシコ	後古典期	950～1200 年
人物形オカリナ	中米		
神官・ジャガー文様三足皿	マヤ中部低地	古典期後期	550～830 年
ジャガー付き香炉	グアテマラ高地アティトラン湖中	古典期後期	550～830 年
人物形香炉	グアテマラ高地アティトラン湖中	古典期後期	550～830 年
戦士土偶	メキシコ	マヤ古典期	250～830 年
猫科動物文様鍍形壺	ペルー北部海岸	クピスニケ文化	紀元前 1200～紀元前 800 年
神面文様ケーロ	ボリビア、チチカカ湖	ティワナク文化	500～1150 年
人物形壺	ペルー北部海岸	シカン文化	700～1375 年
銀製装飾品	ペルー	インカ文化	1430～1532 年
猫科動物文様布	ペルー南部海岸	パラカス文化	紀元前 400～1 年
魚を獲る人物石彫	ペルー北部海岸	モチエ文化	100～850 年
青銅製鈴	ペルー北部海岸	チムー文化	900～1470 年
魚文様刺繍布	ペルー南部海岸	ナスカ文化	1～750 年
仏像手部	インド ガンダーラ	クシャーナ朝	1 世紀～3 世紀
幾何学文様土器	タイ	バンチェン文化第Ⅲ相	
青銅製鑿	北インド ウトラ パラデシュ		
動物・幾何学文様壺	インダス谷	ハラッパ文化	紀元前 2000 年頃
女性土偶	アフガニスタン	ハラッパ文化	紀元前 2000 年頃
猫科動物像			
市松文様コップ	パキスタン バローチスタン丘陵 メヘルガル	インダス文明	紀元前 2600～紀元前 1800 年
緑釉壺	中国	後漢	25～220 年
馬灰釉俑	中国	唐	618～907 年
天人像石彫	中国 北斎	南北朝 北斎	550～577 年

資料名	地域	時代	年代
八花鏡	中国	唐～宋代	7世紀～13世紀
馬高式土器		縄文中期	紀元前 3500～紀元前 2400 年頃
阿玉台式土器		縄文中期	紀元前 3500～紀元前 2400 年頃
円筒下層 c 式土器		縄文前期後半	紀元前 4100～紀元前 3500 年頃
称名寺1式土器		縄文後期前半	紀元前 2400～紀元前 1800 年頃
遮光器土偶	東北地方	縄文晩期後半	紀元前 2400～紀元前 1800 年頃
遮光器土偶	東北地方	縄文晩期前半	紀元前 1200～紀元前 800 年頃
遮光器土偶	東北地方	縄文晩期前半	紀元前 1200～紀元前 800 年頃
遮光器土偶 足	東北	縄文晩期	紀元前 1200～紀元前 400 年頃
磨製石斧	日本	縄文中期	紀元前 3500～紀元前 2400 年頃
磨製石斧	日本	縄文中期	紀元前 3500～紀元前 2400 年頃
石鏃	日本 関東	縄文晩期	紀元前 1200～紀元前 400 年頃
石鏃	日本 関東	縄文晩期	紀元前 1200～紀元前 400 年頃
石鏃	関東	縄文晩期	紀元前 1200～紀元前 400 年頃
石鏃	日本	縄文	
石鏃	日本	縄文	
石鏃	日本	縄文	
横型石匙	日本	縄文	
横型石匙	日本	縄文	
弓箸飾	日本	縄文	
骨角製匙	日本	縄文	
骨角製銚頭	日本	縄文～弥生	
牙製勾玉	日本	縄文	
歯牙	日本	縄文	
翡翠製垂飾珠	日本	縄文中～後期	紀元前 3500～紀元前 1200 年頃
翡翠製大珠	日本	縄文後期	紀元前 2400～紀元前 1200 年頃
翡翠製垂飾珠	日本	縄文中～後期	紀元前 3500～紀元前 1200 年頃
石棒	日本	縄文後～晩期	紀元前 2400～紀元前 400 年頃
石棒	日本	縄文後～晩期	紀元前 2400～紀元前 400 年頃

資料名	地域	時代	年代
石刀	日本	縄文晩期	紀元前 1200～紀元前 400 年頃
独古石	日本	縄文後期	紀元前 2400～紀元前 1200 年頃
貝輪	日本	縄文	
貝輪	日本	縄文	
貝輪	日本	縄文晩期	紀元前 1200～紀元前 400 年頃
袈裟櫨文銅鐸	日本	弥生～古墳	紀元 400～700 年頃
銅戈	日本 佐賀県	弥生	紀元 400～300 年頃
人物埴輪	日本	古墳	300～700 年頃
鶏頭鈴飾り	日本 群馬県	古墳	300～700 年頃
頭椎太刀	日本	古墳後期	6 世紀
勝坂式土器	日本 関東地方	縄文中期前半	紀元前 3500～紀元前 3000 年頃
弥生土器	日本 九州地方	弥生後期	100～300 年頃
土師器	日本	古墳前期	4 世紀
須恵器	日本	古墳	300～700 年頃

常設展「2022 日本画コレクションⅠ」

開催期間

2022 年 2 月 27 日(日)～6 月 6 日(月)

作品点数

24 点

展示作品

No	作品名	作家名	年代
1	神田祭	鎗木清方	昭和 10～15 年頃
2	田園の朝松籟を聞く	児玉希望	昭和 5 年頃
3	薄紅梅	前田青邨	大正 12～15 年頃
4	行く春	横山大観	明治 33 年
5	梅が香	立石春美	昭和初期
6	四季美人図	上村松園	明治 25 年
7	月宵	浜田昇児	昭和 45 年頃
8	白雪紅燿	奥田元宋	昭和 62～63 年
9	古城春夕	川合玉堂	昭和 17 年
10	清遊	下田義寛	昭和 60 年
11	初音図	上村松園	大正末期
12	猫	前田青邨	昭和 48 年頃
13	鯉	小堀墨秀	平成元年
14	奥入瀬清流	堂本阿岐羅	昭和 57～60 年
15	夜桜	加山又造	昭和 57 年
16	賀の日	佐多芳郎	昭和 59 年
17	白梅紅壁	岡信孝	昭和 59 年
18	初日	小川芋銭	大正 5 年頃
19	香富貴	竹内栖鳳	昭和 5～10 年頃
20	紙雛絵	高森碎巖	明治～大正 6 年
21	にわとり	狩野満信(休伯)	江戸後期(寛政 11～天保 10 年)
22	芙蓉春靄	橋本関雪	明治 33～昭和 20 年
23	十二客名花双幅	狩野永岳	幕末(万延元年)
24	不盡山	横山大観	昭和

常設展「2022 日本画コレクションⅡ」

開催期間

2022 年 6 月 7 日(木)～9 月 12 日(月)

作品点数

13 点

展示作品

No	作品名	作家名	年代
1	飛天妃図	棟方志功	昭和 33 年
2	凧	東山魁夷	昭和 15 年
3	花鳥図	堂本印象	昭和 25 年頃
4	夏の山路	山元春挙	明治
5	山居	狩野知信(永秀)	江戸後期～明治 17 年
6	紅葉	鐔木清方	昭和 22 年頃
7	帰去来辞(陶淵明)	下村観山	大正初期
8	夏の夜図	上村松園	明治 35 年頃
9	夜摩天	村上華岳	大正 10 年
10	奥山溪谷寒山偲ぶ	鈴木松年	
11	龍蛟躍四溟	横山大観	昭和 11 年頃
12	夏冬山水	川合玉堂	大正 10 年
13	山鳥	川村憲邦	昭和～平成

常設展「2022 日本画コレクションⅢ」

開催期間

2022 年 9 月 15 日(木)～12 月 16 日(金)

作品点数

17 点

展示作品

No	作品名	作家名	年代
1	牡丹	前田青邨	昭和 40 年頃
2	潮汲	鳥居清忠	
3	冬響(富士)	常岡幹彦	
4	清秋	鐔木清方	昭和 10 年代
5	秋晴	伊東深水	大正～昭和 47 年
6	鯉	小堀墨秀	平成元年
7	白梅紅壁	岡信孝	昭和 59 年
8	白雪紅耀	奥田元宋	昭和 62～63 年
9	源氏物語 はは木々	土佐光起	江戸前期(寛文頃)
10	宝珠	真野満	昭和 49 年
11	義経	佐多芳郎	昭和
12	紅椿	森 白甫	
13	秋色	横山大観	昭和 18 年
14	翔ける	加山又造	昭和 62 年
15	日	葛飾北斎	江戸後期(寛政 12 ～文化 5 年)
16	龍	葛飾北斎	江戸後期(寛政 12 ～文化 5 年)
17	月	葛飾北斎	江戸後期(寛政 12 ～文化 5 年)

常設展「2022 西洋画コレクション」

開催期間

2022 年 2 月 27 日(日)~12 月 16 日(金)

作品点数

28 点

展示作品

No	作品名	作家名	年代
1	アメリカ人闘牛士 マリア ノ・セバージョス	エウヘニオ・ルーカス・ベ ラスケス	1840 年頃~70 年
2	聖衣剥奪	エル・グレコ 工房	17 世紀初頭
3	スピリアート夫人	カレル・ヴァン・ベル	1920 年
4	椿	岸田劉生	昭和 2 年
5	波	ギュスターヴ=クールベ	1869 年
6	熊の湯雪景	熊谷守一	昭和 12 年頃~昭和 52 年
7	ジヴェルニーの草原、朝	クロード・モネ	1888 年
8	暑中休暇の校庭	坂本繁二郎	大正 4 年
9	岸辺の小舟(ヴィル・ダブ レー)	ジャン=バティスト=カ ミユ・コロー	1865~70 年頃
10	木を拾う人	ジャン=バティスト=カ ミユ・コロー	1855 年頃~75 年
11	川の女神の姿をした婦人 の肖像	ジャン=マルク・ナティエ	18 世紀
12	テネブル	ジョルジュ・ルオー	1918 年頃~58 年
13	千種百合	中川一政	昭和 20 年頃~平成 3 年
14	粧える女	林 武	昭和 28 年
15	洗濯をする農婦	フィンセント・ファン・ゴ ッホ	1885 年
16	風景	フェルディナンド・ルー カス・バウアー	
17	海	藤島武二	昭和 8 年
18	婦人像	宮本三郎	昭和 36 年
19	木蓮のある静物	武者小路実篤	1927(昭和 2)年 頃~1976(昭和 51)年
20	ボースの風景	モーリス・ド・ヴラマンク	1940 年
21	海	モーリス・ド・ヴラマンク	1908 年頃~55 年
22	ラ・フェルテ・ミロン城	モーリス・ユトリロ	1939 年頃
23	栗とレンガと猿のこしか け	山口薫	昭和 25 年頃~昭和 43 年

No	作品名	作家名	年代
24	季節の鳥	脇田 和	昭和 30 年～平成 10 年頃
25	アフリカの花	三岸節子	昭和 48 年 8 月
26	睡蓮	クロード・モネ	1903～19 年頃
27	蒼	有元利夫	昭和 52 年
28	柳のある川の風景	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	1874～76 年頃

常設展「2022 コレクション」

開催期間

2022 年 2 月 27 日(日)～12 月 16 日(金)

作品点数

74 点

展示作品

No	作品名	作家名	年代
1	太刀 銘「康次」	康次	鎌倉時代(建暦頃)
2	太刀 銘「了戒」	了戒	鎌倉時代(延慶頃)
3	風土連作	北岡文雄	昭和 60 年
4	百花朝鳳	中国北京七宝焼研究所	
5	風景	豊田寿生	
6	虹	安達靖子	
7	時間	安達靖子	
8	切付札二枚胴童具足	作者不詳	江戸中期
9	無題	武政健夫	平成 19 年
10	無題	武政健夫	平成 19 年
11	太陽	挾土秀平	平成 28 年
12	風景	N.Weil	
13	雄弁	エミール＝アントワーヌ・ブールデル	1913～23 年
14	自由	エミール＝アントワーヌ・ブールデル	1913～23 年
15	勝利	エミール＝アントワーヌ・ブールデル	1913～23 年
16	力	エミール＝アントワーヌ・ブールデル	1913～23 年
17	果実のトルソ	エミール＝アントワーヌ・ブールデル	1911 年
18	天女の飛翔	北村西望	

No	作品名	作家名	年代
19	生命シリーズ～陽光から宇宙へ～	剣持忠	
20	生命シリーズ～二つの再生～	剣持忠	
21	少年・青い花	ズビネック・セカール	1957 年
22	半身像	ズビネック・セカール	1964 年
23	文字	ズビネック・セカール	1968 年
24	胸像	ズビネック・セカール	1988 年
25	無題	ズビネック・セカール	1988 年
26	無題	ズビネック・セカール	1992 年
27	トルソ	ズビネック・セカール	1959 年
28	柱	ズビネック・セカール	1967 年
29	ヌクトマル	流政之	
30	プライド	コンスタンティン・ブランクーシ	1905 年頃
31	殺すことのできない人間	フレデリック・フランク	
32	三人の人物	アウレリア・ムニョス	1971 年
33	白い海	アウレリア・ムニョス	1986 年
34	テーブル	イヴ・クライン	
35	瘢痕	ズビネック・セカール	1976 年
36	無題	ズビネック・セカール	1976～77 年
37	ミツマタ備長炭オブジェ	保坂桂一	平成 13 年
38	「7 つの音楽」より	有元利夫	昭和 53 年
39	花鳥風月	今井俊満	昭和 61 年
40	龍田川	今井俊満	昭和 61 年
41	モノグラム	エミール＝アントワーヌ・ブールデル	1921 年（原型制作）1970 年代前半（鑄造）
42	アマゾン 3	奥村信之	
43	華丘	澤田政廣	昭和 52 年頃
44	裸婦	清水 多嘉示	
45	少女像	富永直樹	
46	晴日	富永直樹	昭和 59 年
47	母子	三坂 耿一郎	
48	アベ・ブランカ	アウレリア・ムニョス	
49	生垣	アウレリア・ムニョス	1991 年頃～95 年
50	y-古代夢幻	池田満寿夫	平成 5 年
51	y-頭龍	池田満寿夫	平成 4 年
52	y-青笛川	池田満寿夫	平成 6 年
53	旅人	池田満寿夫	
54	神話	池田満寿夫	
55	浦島	池田満寿夫	
56	万葉人	池田満寿夫	

No	作品名	作家名	年代
57	舍利	池田満寿夫	
58	天童大黒童子	藪内 佐斗司	平成 21 年
59	顔シリーズ I (ボーダーシャツ)	儘田能光	
60	顔シリーズ I (赤い髪)	儘田能光	
61	顔シリーズ I (三つ編み)	儘田能光	
62	顔シリーズ I (赤いドレス)	儘田能光	
63	顔シリーズ II (緑のネックレス)	儘田能光	
64	顔シリーズ II (紫のロングヘアー)	儘田能光	
65	顔シリーズ II (赤いイヤリング)	儘田能光	
66	アラバスク アラビア文字	吉田左源二	
67	モーニング グロウ	蘆田啓子	
68	ドローイング	アウレリア・ムニョス	
69	ドローイング	アウレリア・ムニョス	
70	ドローイング	アウレリア・ムニョス	
71	刀 銘「一葉葵紋主水正正清」	主水正正清	享保 6～15 年
72	波濤図	今井俊満	平成 4 年
73	ペルシャ絨毯	ナガシュプール工房	
74	コプランランプ	エミール・ガレ	1904

特別展示

特別展「北大路魯山人展」

開催期間

2022年2月27日(日)～12月16日(金)

作品点数

55点

協力

一般財団法人 国際芸術財団



展示概要

北大路魯山人(1883～1959)は書家、篆刻家、美食家、陶芸家など様々な顔を持ち、いずれの分野でも第一級の作家として活躍しました。書家として立ち、美食を追求し、中国の染付や呉須、日本の古陶磁などのエッセンスをもとに、料理を惹きたてる様々な食器を生み出しました。その上、絵画や漆芸にも異才を発揮しています。魯山人のように熱心に古陶磁を研究し、古美術の心をくみ取り、それを自分のものにしてしまった芸術家は極めて稀と言えます。

本展では篆刻をはじめ、染付、黄瀬戸、志野、織部、信楽、備前などの陶磁器約50点を展示する他、漆塗葡萄文円卓、鉄透置行燈を初公開致しました。生き方に対しても深い関心が寄せられている魯山人の魅力をご紹介します。

展示作品

No	作品名	年代
1	雲錦鉢図	昭和10年代(1935-44)
2	備前花入	昭和
3	つばき鉢	昭和13年(1938)
4	色絵紅葉文木葉形鉢	昭和18年(1943)
5	織部釉陶硯	
6	雲錦大鉢	昭和16年(1941)
7	備前竹形花入	
8	備前德利型花入	
9	染付詩文花生	

No	作品名	年代
10	鉄刷毛目叩き小皿(五枚)	
11	備前銀彩刷毛目櫛描芒文銘々皿(五枚)	
12	備前銀彩菖蒲絵組皿(五枚)	
13	備前土長方皿	
14	赤絵汁次	
15	織部汁次	
16	織部鉢	
17	絵瀬戸格子文台皿	
18	信楽シノギ八寸	
19	銀彩徳利	
20	赤呉須黄瀬戸盃	
21	赤志野草文ぐいのみ	
22	金欄手赤玉向付	
23	色絵この葉形平鉢	
24	織部蓋付田楽皿	
25	赤壁之賦拓本屏風	
26	扁額「青苔窠」	
27	染付福の字丸皿・中	
28	染付福の字丸皿・小	
29	椿紋茶碗 銘 花麗	
30	銘々皿 岩陰(五枚)	
31	漆塗葡萄文円卓	
32	椿絵茶碗 銘 沙羅	
33	銀三彩蟹線彫文平段鉢	
34	染付麦藁手茶入	
35	織部釉盃	
36	ぐいのみ	
37	ぐいのみ	
38	信楽土銀彩鉢	
39	織部釉窯変長方皿	
40	刷毛目吉祥鉢	
41	伊賀釉平向(五枚)	
42	宗旦菊文鉢	
43	染付赤絵薬味入	
44	黄瀬戸タンパン印花皿	
45	志野ドラ鉢	
46	草文織部長角皿	
47	碧玉釉カブト鉢	
48	みどり釉飯茶碗	
49	櫛目筋織部釉長方皿	
50	粉引汲出し(六点)	
51	鶏流山土刷毛目盃	
52	信楽土徳利	

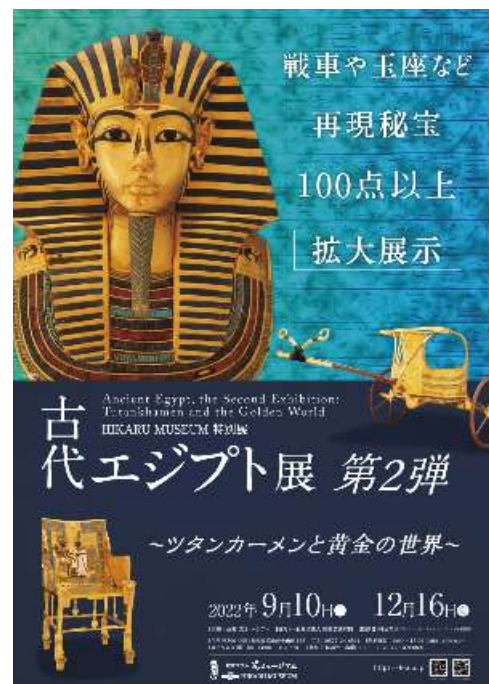
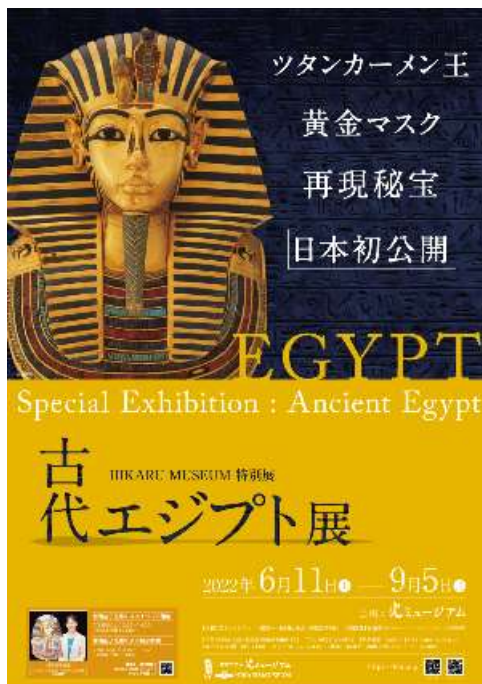
No	作品名	年代
53	赤絵香合	
54	鉄透置行燈	
55	織部花入	昭和 27 年(1952)

特別展「古代エジプト展」

開催期間

第一弾 2022 年 6 月 11 日(土) ～9 月 5 日(月)

第二弾 2022 年 9 月 10 日(土) ～12 月 16 日(金)



作品点数

第一弾 40 点

第二弾 118 点

協力

一般財団法人 国際芸術財団

監修者

村治笙子(ジャパン・ツタンカーメンプロジェクト学術顧問)

展示概要

本年は、ハワード・カーターによるツタンカーメン王墓の発掘から 100 年、シャンポリオンによるヒエログリフの解読から 200 年にあたります。本展では「スーパークローン芸術」の名のもとに、エジプト・ミニア大学 ムスタファ・マフムード・エル・エザビィ教授が、本物と同じサイズで精巧に再現したツタンカーメン王の「黄金のマスク」や「木製黄金厨子」など、ツタンカーメン王墓からの出土品レプリカ 40 点を日本初公開いたしました。

9 月 10 日からは第 2 弾として展示を追加・拡大し、「黄金の玉座」や「3 重の人型棺」など 131 点を一挙公開いたしました。エジプト学的な記念の年に、古代エジプトの死生観、及び高度な工芸技術などをお楽しみいただきました。



展示資料

No	資料名	
1	第3の厨子	第一弾
2	自身の玄室を護る門番として置かれたツタンカーメン像	第一弾
3	王の誕生時に双子として生まれたカーの像	第一弾
4	黄金の第三の人型棺	第一弾
5	アヌビス神	第一弾
6	カノポス容器	第一弾
7	木製金張りのソリ型の内臓入れの外側の厨子 4 女神が保護する	第一弾
8	黄金のマスク	第一弾
9	アタマにネフェルテム神のロータスを載せたバス神 のアラバスターの香油瓶	第一弾
10	穀竿と牧杖を持つ王像	第一弾
11	セクメト女神の木製金張像	第一弾
12	黄金の小型人型棺の内臓入れ	第一弾
13	メネス頭巾をかぶったコブラとつけ髭王のジャブ ティ	第一弾
14	木製のケペシュ型湾刀	第一弾
15	ハゲワシ姿のネクベト女神とコブラ姿のウワジェト 女神の胸飾り	第一弾

No	資料名	
16	二女神が額に置かれている王冠	第一弾
17	有翼のウワジェット女神の黄金の胸飾り	第一弾
18	玉座の王を透かし彫りにした儀式用盾	第一弾
19	玉座の王を透かし彫りにした儀式用盾	第一弾
20	王の強さを表す透かし彫りのある儀式用盾(奉納盾)	第一弾
21	敵を踏みつけるライオン姿の王の透かし彫りのある儀式用盾	第一弾
22	ヒョウの毛皮で作られたセム神官の法衣についていた黄金の飾り	第一弾
23	木製金張りの鏡入れの蓋「生命」の象徴の「アンク」をかたどっている	第一弾
24	永遠の時を表すヘフ神がヤシの枝を持っている場面のある第2の鏡入れ	第一弾
25	子供の姿で表されたツタンカーメンの祖父アメンヘテプ三世の小像のペンダント	第一弾
26	スカラベと貴石をあしらった金製の腕輪	第一弾
27	王のミイラの腹の上に置かれていた鉄製の短剣	第一弾
28	王のミイラの脚部分に置かれていた短剣	第一弾
29	宝飾品全体がツタンカーメンの即位名ネブ・ケペルウ・ラーの王名を表しているペンダントヘッド	第一弾
30	王のミイラの上に置かれた護符左が山犬姿のアヌビス神、右がトキの姿のトト神	第一弾
31	頭に太陽を戴くホルス神のペンダント	第一弾
32	金の杖の先にある幼少時代のツタンカーメン	第一弾
33	両肩部分にホルスをあしらったウセクの胸かざり	第一弾
34	胸飾り 新月と満月を載せたウジャトの聖眼を持ち上げているシリカガラスで作られた有翼のスカラベ。太陽神の誕生を表している	第一弾
35	黄金のハヤブサの胸飾り	第一弾
36	太陽を頭に戴いたホルスの胸飾り	第一弾
37	王のミイラが履いていたサンダル	第一弾
38	切抜き細工のネクベト女神。ミイラの喉の部分に置かれていた	第一弾
39	黄金の鷲の襟	第一弾
40	銀製の装飾されたザクロの形をしたジャー	第一弾
41	アクエンアテン王妃ネフェルティティの頭部	第二弾追加展示
42	黒い樹脂で塗られた塔門の間に置かれたヘス壺櫃と杉材の高脚つき木箱	第二弾追加展示
43	植物によるセマアタウイ(統一の図)の飾りのあるアラバスターの壺	第二弾追加展示
44	植物によるセマアタウイ(統一の図)の飾りをもつアラバスターの壺	第二弾追加展示

No	資料名	
45	野生のヤギを象ったアラバスター製の香油瓶	第二弾追加展示
46	金箔をほどこした牝牛の頭部	第二弾追加展示
47	第一の人型棺または外側の棺	第二弾追加展示
48	樹脂とナトロンが納められていた厨子 間には「口開きの儀式」で使われるペセシュ刀が置かれている	第二弾追加展示
49	黒い樹脂で塗られた塔門 間に清め用のヘス壺が置かれている	第二弾追加展示
50	ツタンカーメンの衣装用マネキン	第二弾追加展示
51	第二の人型棺	第二弾追加展示
52	舟の上で鋸でカバを突く姿の金張り木造の王像	第二弾追加展示
53	ヒョウの上で右手に殻竿と左手に牧杖をもつ王像	第二弾追加展示
54	標章台の上のハヤブサ姿のソパド神	第二弾追加展示
55	双子の子供のホルス 片方はおそらくカー像	第二弾追加展示
56	ウラエウス姿のネチエルアंक神の木製金張り像	第二弾追加展示
57	実物大のガチョウの像 ガチョウはアメン神をあらわしたもの	第二弾追加展示
58	王権の象徴の殻竿と牧杖をもった王のシャブティ	第二弾追加展示
59	金のネメス頭巾をかぶり殻竿と牧杖をもつ王のシャブティ	第二弾追加展示
60	ヌビア風の鬘をつけた王のシャブティ	第二弾追加展示
61	青冠をかぶり殻竿と牧杖をもつ王のシャブティ	第二弾追加展示
62	金のネメス頭巾をかぶり殻竿と牧杖をもつ王のシャブティ	第二弾追加展示
63	ツタンカーメンの子供(娘)のミイラ 2 体	第二弾追加展示
64	未熟児のミイラを納めた棺	第二弾追加展示
65	未熟児の一体にかぶせてあった金箔をはったカルトナーージュ製のマスク	第二弾追加展示
66	ミニチュアの人型棺 外棺と内棺	第二弾追加展示
67	樹脂が塗られたミニチュアの外棺の蓋	第二弾追加展示
68	未熟児の入っていたミニチュアの人型棺	第二弾追加展示
69	ミニチュアの人型棺の内棺	第二弾追加展示
70	ミニチュア人型棺の木製金張りの内棺	第二弾追加展示
71	握りの部分にヌビア人捕虜とアジア人捕虜を縛りあわせた細工のある王の杖	第二弾追加展示
72	ロータス形の船首と船尾をもつ儀式用の太陽の舟	第二弾追加展示
73	大きな櫂のある王の御座船の模型	第二弾追加展示
74	帆のある王の御座船の模型	第二弾追加展示
75	パピルス製の船の模型	第二弾追加展示
76	大気之神シュウの木製金張り像	第二弾追加展示
77	大地之神ゲブの木製金張り像	第二弾追加展示
78	ミイラ姿のホルス神の木製金張り像	第二弾追加展示
79	ホルスの四人の息子、ハヤブサ頭のケベフセヌエフの木製金張り像	第二弾追加展示

No	資料名	
80	ミイラ姿のタテネン神の木製金張り像	第二弾追加展示
81	殻竿と牧杖を持つ王像	第二弾追加展示
82	ツタンカーメンの祖母で、祖父アメンヘテプ三世の王妃ティの頭部	第二弾追加展示
83	ヌビア風鬘をかぶり殻竿と牧杖をもつ王のシャブティ	第二弾追加展示
84	プタハ神の木製金張り像	第二弾追加展示
85	ホルスの四人の息子のドウラムテフの木製金張り像	第二弾追加展示
86	太陽神の聖なる香りロータスの香りの神ネフェルテムの姿のツタンカーメン	第二弾追加展示
87	木製の芯をもつ金属製の軍用トランペット	第二弾追加展示
88	金と銀で作られた軍用トランペットの先部分	第二弾追加展示
89	敵を踏み敷くことを表したサンダル	第二弾追加展示
90	スカラベの胸飾り	第二弾追加展示
91	ひょう柄の木製折りたたみスツール	第二弾追加展示
92	金箔で装飾された木製の玉座	第二弾追加展示
93	メンケレト神にかつがれて進む王の像	第二弾追加展示
94	大地の神ゲブの木製金張り像	第二弾追加展示
95	第2厨子 古代上エジプト地方のペル・ウル厨子の形を模している	第二弾追加展示
96	一番内側の厨子 古い時代の北の王宮ペル・ヌウを象ったもの	第二弾追加展示
97	赤色花崗岩製の石棺 イシス、ネフティス、セルケト、ネイトの4女神が守護している	第二弾追加展示
98	永遠の象徴ヘフ神の透かし彫りのある木製椅子	第二弾追加展示
99	雌ライオンの飾りのある祭儀用寝台	第二弾追加展示
100	花崗岩製のツタンカーメン彫像	第二弾追加展示
101	儀式用戦車	第二弾追加展示
102	木製手箱 「生命」の文字「アंक」と「権力」の文字「ウス」を「すべての」を表す「籠」の文字の上にのせた古代エジプトで好まれた図柄の連続模様をあしらってある	第二弾追加展示
103	鍬とカゴをもった木製金張りのシャブティ 「死者の書」の呪文6がヒエログリフで書かれている	第二弾追加展示
104	ブルーファイアンス製の王のシャブティ	第二弾追加展示
105	石灰岩製の王のシャブティ 「善き神、両国の主、ネブ・ケペルウ・ラー、オシリス神に愛された声正しき者」とヒエログリフで書かれている	第二弾追加展示
106	木製の王のシャブティ	第二弾追加展示
107	彩色された木製の王のシャブティ	第二弾追加展示
108	ウラエウスコブラのついたカト冠のブルーファイアンス製の王のシャブティ	第二弾追加展示
109	青冠をつけた石灰岩製の王のシャブティ	第二弾追加展示

No	資料名	
110	アラバスター製の王のシャブティ	第二弾追加展示
111	つるはし、鋤、籠をもつ王の木製金張りのシャブティ	第二弾追加展示
112	ブルーファイアンス製の王のシャブティ像	第二弾追加展示
113	木製金張りの王のシャブティ	第二弾追加展示
114	アクエンアテン王一家のアテン信仰を表す石碑 アテンは太陽神の一つの姿で、太陽円盤と太陽光線とで表現する	第二弾追加展示
115	アジア人を追い払う戦いの場面がかかれた櫃	第二弾追加展示
116	ロータスの茂みに浮かぶ太陽の舟	第二弾追加展示
117	金箔切り抜き細工のウフジェト女神 ミイラの上に置かれていた	第二弾追加展示
118	シャブティ（18点）	第二弾追加展示

企画展示

企画展「田辺謙輔展～南国の風に吹かれて～」

開催期間

2022年2月27日(日)～6月6日(月)

作品点

22点

展示概要

春陽会は1922年(大正11年)、小杉未醒、梅原龍三郎、岸田劉生、中川一政などが参加し、院展洋画部と草土社が合流した団体として創立されました。

そのメンバーの一人、故・田辺謙輔の作品展です。メキシコ、フランス、イタリアなどを描いた油彩画、水彩画など22点を展示いたしました。



展示作品

No	作品名	作家名
1	大樹の下	油彩画
2	姉妹	油彩画
3	桃色の家	油彩画
4	橋のある風景	油彩画
5	マントン風景	油彩画
6	シチリアの丘	油彩画
7	帽子のある静物	油彩画
8	卓上静物	油彩画
9	サン・ポール・ド・ヴァンスの城壁	油彩画
10	秋刀魚	水彩とパステル画
11	切魚	水彩とパステル画
12	背を向けたセニョリータ	水彩画
13	カゴ女	油彩画
14	カルタジローネの丘	油彩画
15	マントンの庭	油彩画
16	壺とセニョリータ	油彩画
17	横たわる女	油彩画
18	背を向く女	油彩画
19	枇杷	油彩画
20	タスコ風景	水彩画

No	作品名	作家名
21	二人	水彩画
22	籠とセニヨリータ	水彩画

普及活動

一般向け活動

実施にあたって

美術館・博物館が行う教育は、展示のほかに講演・講座をはじめとする多様な形態の学習支援活動がある。さらに、興味・関心を引き出す手法を開発したりアミューズメント性を高めることで、幼児から高齢者まで誰もが気軽に自発的に学習し、知を愉しむことのできる場となる。当館のレプリカ作り、ストラップ作りや謎解き等は、前年同様楽しく学び、美術館・博物館に親しみを感じていただく事を目的とする。

体験学習

レプリカストラップづくり！

日 時 令和4年2月～12月
(土日祝日、GW、お盆期間)
場 所 飛騨展示室体験学習コーナー
対 象 4歳以上
参加者 947名
参加費 100円



内容

アンモナイト、三葉虫、巻貝の化石から取った型の中からいずれかを選び、2色の樹脂を入れてガラスの装飾をし、レプリカを作る体験学習。

状況

旅行にきた記念にグループや家族で参加される方が増えてきた。

ビーズ付きまがたまストラップを作ろう！

日 時 令和4年3月～12月
(土日祝日、GW、お盆期間)

場 所 地下図書コーナー

対 象 小学1年生以上

参加者 1,054 名

参加費 100 円



内容

カラフルなオープン粘土で作った勾玉に紐を通し、ビーズ をトッピングしてストラップを作る体験学習。

状況

一昨年、昨年同様、感染症対策の兼ね合いから図書コーナーを使用した。参加者・担当者とも手指消毒を行い、器材・テーブルなども使用前後に消毒を行って実施した。

来館者が増え、体験学習の参加者も増えてきたが、会場の広さに対して担当者が 1～2 名のため、同時に多くの参加希望者が来た際、空席があっても全てを受け入れることが出来ずお断りするケースがあった。

来館者が多い時期は、ボランティアにもサポートを依頼し、増員して対応した。

三色摺り版画体験

日 時 令和4年3月～12月
(土日祝日、GW、お盆期間)

場 所 地下図書コーナー

対 象 小学1年生以上

参加者 182 名

参加費 100 円



内容

絵師・彫師・摺師の共同作業でできあがる浮世絵版画。版木に絵の具をぬり、和紙をのせてバレンでこする摺りの体験。季節によって版画の種類を変更。

状況

感染症対策の兼ね合いから図書コーナーを使用した。参加者・担当者とも手指消毒を行い、器材・テーブルなども使用前後に消毒を行って実施した。

謎解き



場 所 館内
 対 象 5 歳以上
 参加者 1,334 名
 参加費 200～400円

内容

館内をまわりながら出題された謎を解き、ゴールを目指す。出題の内容は展示に絡めた内容であり、ゲームに参加しながら学習を行うことができる。(レベルは1～4までの4種類から選択できるようにした)

外部連携活動

□出張美術館

子供たちが、幼少の頃から美術館・博物館に行き、本物に触れるということは欧米では決して珍しくない。当館では小・中学校に美術品を持ち込んで、児童・生徒に本物に触れさせ、優れた作品から感動・喜びを体験してもらおうと出張美術館を開催している。文化庁のモデル事業として始まったこの出張美術館も今年(H27)で13年目。授業数が減る中、図工・美術の鑑賞教育の支援として学校と連携して行い、10月～12月の約3ヶ月間に下記の通り実施した。出張美術館を通じて子供たちが芸術文化と触れ合い、和やかな心と豊かな感性を持った人間に成長することを願うと共に、交通のデメリットを少しでも解消し、多くの人々に美術鑑賞をしていただきたいと考えている。

持参作品

〔小学校〕

『東海道五十三次』…………… 歌川広重

川崎・六郷渡舟

大磯・虎ヶ雨

原・朝之富士

藤枝・人馬継立

金谷・大井川遠岸

舞坂・今切真景

〔中学校〕

『ほととぎすと遊女』…………… 駿斎連馬

『名所江戸百景』…………… 歌川広重

する賀てふ

上野清水堂不忍ノ池

飛鳥山北乃眺望

川口のわたし善光寺

亀戸梅屋舗

玉川堤乃花

実施校一覧

No.	学校名	日程	曜日	時限	時間	クラス 人数	実施場所
1	新宮小学校	10月12日	(水)	5-6時限	13:30-15:10	1-2組 66名	図工室
2	宮中学校	10月19日	(水)	3時限	10:30-11:20	A組 24名	1階 美術室
3	松倉中学校	10月25日	(火)	2-5時限	9:20-14:10	A-D組 139名	2階 美術室
4	花里小学校	11月15日	(火)	3-4時限	10:25-12:15	1-2組 52名	1階 図工室
5	三枝小学校	11月15日	(火)	5時限	13:50-14:35	1組 22名	3階 図工室
6	本郷小学校	11月16日	(水)	2時限	9:20-10:15	1組 8名	1階 図工室
7	朝日小学校	11月22日	(火)	2時限	9:25-10:10	1組 10名	1階 図工室
8	山王小学校	11月29日	(火)	2-4時限	9:15-12:05	1-3組 93名	3階 図工室
9	清見小学校	11月29日	(火)	5時限	13:35-14:20	1組 19名	2階 図工室
10	宮小学校	11月30日	(水)	3時限	10:30-11:15	1組 23名	2階 図工室
11	江名子小学校	12月7日	(水)	3時限	10:40-11:25	1組 40名	4階 家庭科室
12	丹生川中学校	12月13日	(火)	4時限	11:10-12:00	A組 30名	3階 多目的ルーム
13	久々野小学校	12月14日	(水)	2時限	9:25-10:10	A組 33名	3階イングリッシュルーム
14	西小学校	12月19日	(月)	2時限	9:30-10:15	1組 22名	4階 理科室
15	岩滝小学校	12月20日	(火)	3時限	10:30-11:15	5・6年 5名	3階 図工室
16	東小学校	12月21日	(水)	2-3時限	9:20-11:10	1-2組 66名	2階 理科室2
17	丹生川小学校	12月22日	(木)	4時限	11:35-12:20	1組 34名	3階 図工室
18	清見中学校	12月23日	(金)	5時限	13:20-14:10	1組 21名	1階 美術室
19	北小学校	1月17日	(月)	2-4時限	9:15-12:10	1-3組 123名	1階 図工室
20	国府小学校	1月18日	(火)	2-3時限	9:30-11:25	1-2組 66名	1階 北舎図工室
21	南小学校	1月27日	(木)	5-6時限	13:40-15:20	1-2組 58名	1階 図工室
22	東山中学校	1月30日	(日)	2-4時限	9:20-12:10	A-C組 120名	3階 美術室

※学年の表記がない場合、小学校は6年生、中学校は3年生

学校数 22校

受講人数 1074名

□学校連携活動

○岐阜女子大学 書道部練成会

会期:令和4年8月30日(火)～9月1日(木)

参加者:教授 6 名、生徒 24 名

内容:

岐阜女子大学書道部に練成会会場を提供。学生はミュージアムの見学と作品制作を行った。また、練成会后、学生が制作した作品 30 点を 1 階ホールに展示した。

今回は飛騨高山大学連携センターの協力で、高山市内の高校書道部の生徒を招き、合宿風景を見学してもらうとともに、生徒が持参した作品を教授に講評していただいた。



その他連携活動

○地域お仕事発見隊

日時:

令和 4 年 7 月 26 日(火)、30 日(土)

8 月 1(月)～5 日(金)

内容:

高山市内在住の小中学生が地元企業の「お仕事体験」をするプロジェクトに当館も参加し、合計 9 名の小学生が当館の仕事を体験した。



実施日	参加者	実施内容
7月 26 日(火)	小学生1名	プログラミングによるドローン操作
7月 30 日(土)	小学生3名	エジプト展ワークショップ参加者の受付・案内
8月 1 日(月) ～8 月 5 日(金)	小学生 6 名	化石レプリカストラップ作りの手伝い

「没後 50 年 鏑木清方」展

東京国立近代美術館 2022/3/18～5/8

京都国立近代美術館 2022/5/27～7/10

資料名	作者名	制作年月日
京鹿子娘道成寺 14 幅	鏑木清方	昭和 3 年

開館 25 周年記念 大観とその時代 光ミュージアム名品展

小杉放庵記念日光美術館 2022/7/9～9/11

資料名	作者名	制作年月日
おくの細道	小杉放庵	昭和 15 年
雀の宿	小杉放庵	昭和 15 年
山居	小杉放庵	昭和 8 年
金太郎	小杉放庵	昭和 12 年
権八小紫	鏑木清方	大正 12 年頃
湖辺	菱田春草	明治 35 年
晴日	伊東深水	昭和 16～17 年
蓬萊山	横山大観	昭和 14 年頃
三美人之図	上村松園	明治 41 年
瀑布(流動)	菱田春草	明治 34 年
早春	堅山南風	昭和 3～5 年
竹林	横山大観	昭和 29 年頃
鐘馗	小杉放庵	大正 15 年
郊靄	小川芋銭	昭和 5 年頃
金鞍白馬	川端龍子	昭和 25 年頃
観音	安田靉彦	大正 14 年頃
冬晴	竹内栖鳳	昭和 10 年頃
蝗(バッタ)	木村武山	明治 33 年頃
麗日	磯田長秋	昭和 10 年
秋の月	横山大観	明治 33 年頃
海浜	横山大観	明治 36 年
蓬萊群鶴	川合玉堂	大正 4 年
富嶽神鐘	平福百穂	大正 14 年
怒涛	横山大観	明治 34 年頃
武陵桃源	下村観山	大正期
暮色	横山大観	大正中期～昭和初期
月下の雁	横山大観	大正 2 年頃
たいざん木	小杉未醒	大正 8 年
春光	横山大観	昭和 10 年頃
暁噉	横山大観	昭和 19 年
瑞光	田中以知庵	昭和 20 年頃

資料名	作者名	制作年月日
不二霊峰	横山大観	昭和 11 年頃
富士	小川芋銭	大正 11 年頃
麒麟図	富田溪仙	大正 14 年
紅椿	奥村土牛	昭和 30 年頃
巖島	前田青邨	大正 6 年頃
不二霊峰	横山大観	昭和 11 年頃
湖村夕照	川合玉堂	明治 43 年
游鯉	福田平八郎	昭和 14 年頃
夕映	小林古径	大正 6 年頃
溪村庵霽図	橋本雅邦	明治
指(下図)	伊東深水	大正 11 年
溪瀑	山口蓬春	昭和 35 年頃～46 年

開館 40 周年記念 前田青邨展

岐阜県美術館 2022/9/30～11/13

資料名	作者名	制作年月日
罌粟	前田青邨	昭和 5 年

「清方の大正時代－至上の美を求めて－」

鎌倉市鐙木清方美術館 2022/10/22～11/27

資料名	作者名	制作年月日
権八小紫	鐙木清方	大正 12 年頃
葛飾早春	鐙木清方	昭和 10 年頃
深川冬木	鐙木清方	昭和 3 年
如月の花	鐙木清方	大正 13 年頃
野路の玉川	鐙木清方	大正 7 年頃

令和 4 年 光ミュージアム 年報 第 14 号

令和 5 年 3 月 31 日発行

編集・発行 光ミュージアム

〒506-0051 岐阜県高山市中山町 175

TEL 0577-34-6065

FAX 0577-34-6065

<http://h-am.jp>